

第 56 回歴史探訪の会 「大石順教尼と早川徳次翁のかかわり」と 障害芸術家の「いくとくギャラリー」誕生

実施日:平成 29 年 5 月 17 日(水曜)

開催地:和歌山県・九度山町

案内人・記:森 尚夫

コース: 南海・九度山駅～旧菅野家(大石順教尼記念館)～道の駅(昼食)～真田ミュージアム
～九度山駅(解散)

参加者: 21 名



南海・高野線 九度山駅に集合。

大河ドラマ『真田丸』が放送された昨年は大変な人出だったそうです。

【旧菅野家 (大石順教記念館)】

厳しい修行の禅寺で知られる岐阜県下美濃加茂市の正眼寺住職・梶浦逸外さんの招きで、そろって講演に出向いて以来の一期一会。

「堀江の六人斬り事件」

明治の後半大阪の堀江遊郭の「山海楼」の主人、中川万次郎が発狂の末一家 6 人を殺傷した。5 人が死亡、一人に重傷を負わせた事件。

「大石順教尼」

幼少のころ山村流の名取になり「山海楼」の妻吉と名乗り主人の中川万次郎の養女となる。

ここで事件に巻き込まれ両腕を切断されながらも一命をとりとめた。2 代目三遊亭金馬の一座で巡業を始める、その間カナリアが口で雛に餌を与えるのを見て口で字を書く技法を習得、その後身体障害者の相談を始める。高野山金剛峰寺にて得度し名を「順教」と改め仏道の毎日、同じ立場の身障者自立支援する福祉活動に励みました。

。



大石順教記念館にある順教尼のありし日の写真。とっても穏やかな顔です

このようなことから冒頭に述べました正眼寺住職から、早川徳次翁にも講演の依頼がありました。

「早川徳次」と「太石順教」の実業家と宗教家、共通の演題は「足らざる幸せ」でした。

早川徳次翁は極貧、学歴はないに等しい生い立ちがあればこそその幸せ。

順教尼は両腕を切り落とされた 17 歳からの境遇を語られました。

順教尼講演内容は

無手、無学、無財この 3 つの無形の財産が、もし両手があったら決してこのような幸せな生活に巡り合わなかった、と講演されました。口で筆をかねて、書を、日本画を楽しむを聞き「幼少の頃の不遇、その後幾度かの逆境があったから幸せを築けた」と共通の境遇“足らざる幸せ”だった。

その日以来、順教尼が、福祉会館、育徳園に、早川翁も山科の勸修寺仏光院に訪れることが多くなり、ある日順教尼から「口で描く人、足で書く人、皆さん上手にならった、どこぞで展示したい」とおっしゃって翌年亡くなられて 10 年後、育徳園内に障害者芸術家の画廊が誕生、大石順教尼の思いをかなえ、現在も育徳園ギャラリーには大石順

教尼の画をはじめ障害者画家の画廊として展示されています。

大石順教尼と早川徳次翁、身障者自立支援する福祉活動に励み、私財を投じて早川福祉会館や障害者の美術ギャラリーと福祉に力を注がれ、私たちも早川(シャープ)電機に勤務したものとして誇りに思う次第です



大石順教記念館入口



菅野館長よりのお話を聞いています

時間があれば、大石順教記念館(九度山)や育徳園ギャラリーに出掛けて「奉仕の蓄積」で始まる社是を懐かしんでみてください。今回の歴史探訪記事に対し大石順教尼記念館の菅野館長、育徳園の村尾事務局長さまにご協力賜り有難うございました。

大石順教尼没後 50 年関連

平成 29 年 7 月 23 日(日) 会場 高野山大学黎明館 映画「天から見れば」
(無料) 時間 開場 12:00 上映 13:05 分

平成 29 年 11 月 18 日(土) 没後 50 年日本のヘレンケラー 大石順教尼 in 高野山
(入場料 2000 円)

会場 高野山大学 松下講堂黎明館

第一部 記念講演 高野山無量光院 土生川正道大僧正

第二部 記念公演 琵琶(祇園精舎)

舞 (三番叟)

講談(順教尼物語)

【真田ミュージアム】

真田昌幸、信繁(幸村)、大介 3 代の物語を伝えることを目的とした施設で、関ヶ原の合戦の後に昌幸、幸村親子が配流された九度山の地に建てられました。ちょうど「大阪の陣 豊臣方の武将たち展」が開催されていて、真田信繁(幸村)をはじめ豊臣方の武将達をハイライトした展示が行われてました。

現在でも「真田幸村」と云う名で広く知られていますが、直筆の書状を始め、生前の史料で「幸村」の名が使われているものは無く、その実名は「信繁」が正しい。「幸村」の名が見られるようになったのは大坂夏の陣以後で、江戸時代に入って広く読まれた軍記物語に「幸村」の名前が見られ、その後「幸村」の名が一般的となったとされている。関ヶ原の合戦の後「幸村」は九度山に父昌幸と共に蟄居していたが、1614 年の方向寺鐘銘事件をきっかけに豊臣と徳川の関係が悪化すると九度山を脱出し大坂城に入った。



真田ミュージアムにて集合写真